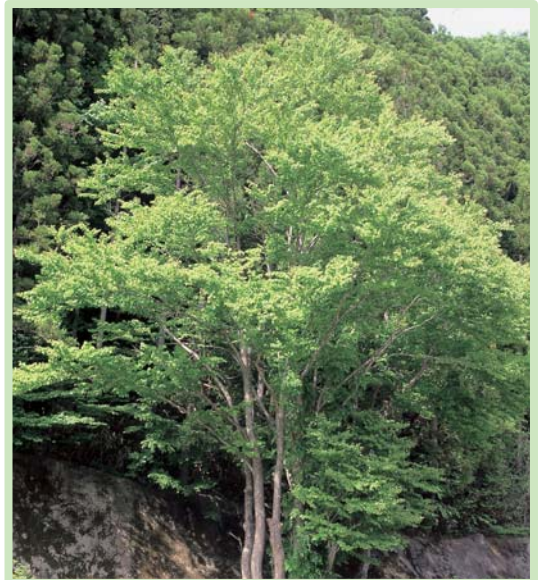


指定58 ヤマザクラ (石割桜)

- 所在地／田人町旅人字横根
- 指 定／S54. 3. 31
- 樹 高／13.8m ■幹 周／5.0m

暖地の桜で阿武隈山地が北限といわれています。阿武隈山地や丘陵部の日当たりのよい自然林に自生し、ソメイヨシノより遅く赤味を帯びた葉と共に淡紅色の花が咲きます。道端の大きな花崗岩の割れ目から石を割ったように太い根が出ている姿から地域の人々は“石割桜”と呼び、花の時期には樹冠が道路を覆って桜の天蓋になります。



指定59 カツラ

- 所在地／田人町旅人字和再松木平
- 指 定／S54. 3. 31
- 樹 高／11.7m ■幹 周／3.5m

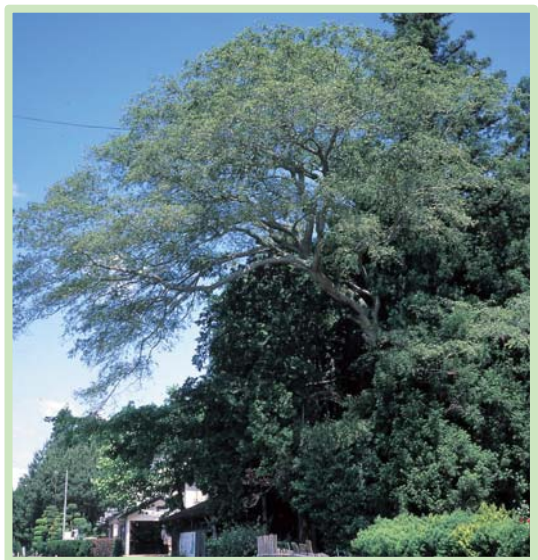
冷温帯の渓谷に生育する株立ちの木です。中生代の地層から葉の化石が採れ、原始的被子植物に位置付けられています。本樹は道路建設の際、入旅人川沿いから移植したもので、川底へ根を伸ばすほど水を要求し耐久性のある木です。春のハート形の新葉が美しい樹木です。



指定65 スギ

- 所在地／遠野町根岸字橋場 (諏訪神社)
- 指 定／S55. 9. 1
- 樹 高／38.0m ■幹 周／4.9m

日本固有の樹木で、およそ1万年前の氷河期に若狭湾や伊豆地方で寒さを避けたスギが後氷化期になると、積雪地には細い葉のウラ系が、太平洋側には開いた葉のオモテ系が分布を広げました。この木はオモテスギ系です。真直ぐに伸びるので「すぐの木」と呼ばれ、神木として尊敬されています。



指定66 エノキ

- 所在地／三和町合戸字浮矢 (地蔵尊)
- 指 定／S55. 9. 1
- 樹 高／14.6m ■幹 周／2.7m

暖かい地方の樹木で北は宮城県まで広がり阿武隈山地では次第に少なくなっています。国蝶オオムラサキの幼虫はこの葉を食べて育ち、果実は小鳥の餌となります。昔、エノキは街道すじの一里塚に植えられました。この木は街道を往来する人々が休憩時に馬をつないだので、地蔵尊は馬糞にまみれていたそうです。



指定67 シダレザクラ(エドヒガン)

- 所在地／四倉町下柳生字宮下13(柳生院)
- 指 定／S55. 9. 1
- 樹 高／10.3m ■幹 周／2.6m

阿武隈山地に散在するエドヒガンの系統に属し枝垂れる型の桜です。日当たりがよく肥沃な土地を好み長命です。花は小形で白くソメイヨシノよりやや早く開花し、昔から庭園樹として親しまれています。阿武隈山地では開花を農作業の目安にするために「種蒔桜」として小高い丘に植えている地域が散在します。



指定70 シダレザクラ(エドヒガン)

- 所在地／平上神谷字宮ノ上85 (住善寺)
- 指 定／S55. 9. 1
- 樹 高／8.2m ■幹 周／2.4m

阿武隈山地に点在し、ソメイヨシノよりやや早く開花するエドヒガンの枝垂れる型です。日当たりがよく肥沃な土地を好み長命で、花は白色・小形で、がくの基がふくらんでいます。昔から庭園に植えられ親しまれていますが、阿武隈山地のエドヒガンは小高い丘に植えられ「種蒔桜」と呼んで農作業の目安にしています。



指定80 フジ

- 所在地／四倉町字西四丁目4-5
- 指 定／S55. 9. 1
- 樹 高／2.2m ■幹 周／0.9m

温帯に生育し他の木によじ登る樹木です。本来野生ですが、庭園や公園にも植えられます。豆科の植物で根粒をもつので土地を選ばずに育ち長命です。房状に垂れ下がる蝶型の藤色の花は豪華で万葉の昔から人々に好まれてきました。



指定81 シダレザクラ(エドヒガン)

- 所在地／平大室字白土29 (大運寺)
- 指 定／S55. 10. 1
- 樹 高／7.7m ■幹 周／3.2m

阿武隈山地に点在するエドヒガンの枝垂れる型で、日当たりのよい肥沃な土地を好み長命です。やや小形でがくの基が少しふくれる白い花はソメイヨシノより早く咲き、昔から庭園に植えられ親しまれています。この木は落雷で主幹が損傷した後、脇枝が代わって伸びはじめ元に戻りました。



指定91 イロハカエデ

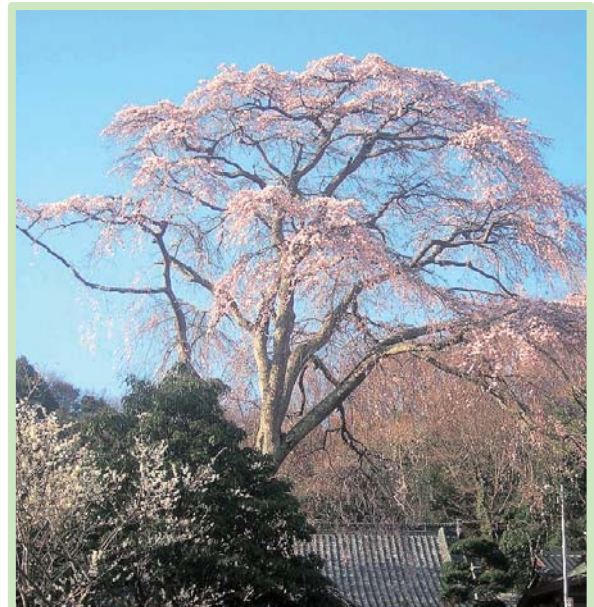
■所在地／遠野町深山田字川堀(川堀観音堂)

■指定／H18. 12. 15

■樹高／13.2m

■幹周／2.9m

葉をカエルの手足になぞらえてカエデと呼んだといわれています。
個体変異が多く江戸時代以来園芸品種がつくられ、明治期には200種を超えました。
秋、離層ができ強い日光で炭水化物が葉に滲り、夜急冷すると赤い色素に変化することから、寒暖の差が大きいほど鮮やかに色づきます。



指定92 エドヒガン (紫金桜)

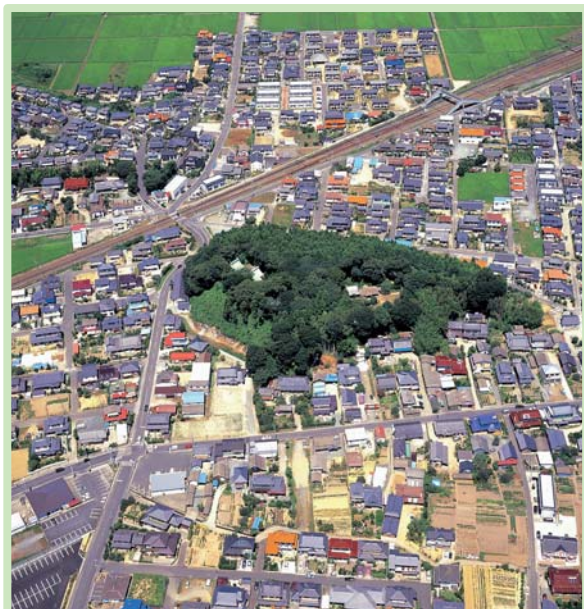
■所在地／山田町蔵ノ内36 (楞嚴寺)

■指定／H18. 12. 15

■樹高／16.8m

■幹周／3.0m

ソメイヨシノより少し早く咲くので昔から小高い丘や寺社境内に「種蒔桜」として植栽されました。境内には枝垂れる型を含めて数株のエドヒガンがあり、花時の楞嚴寺は全山がエドヒガンで埋め尽くされます。花は小さく、がく筒がつぼ形にふくらむのが特長です。



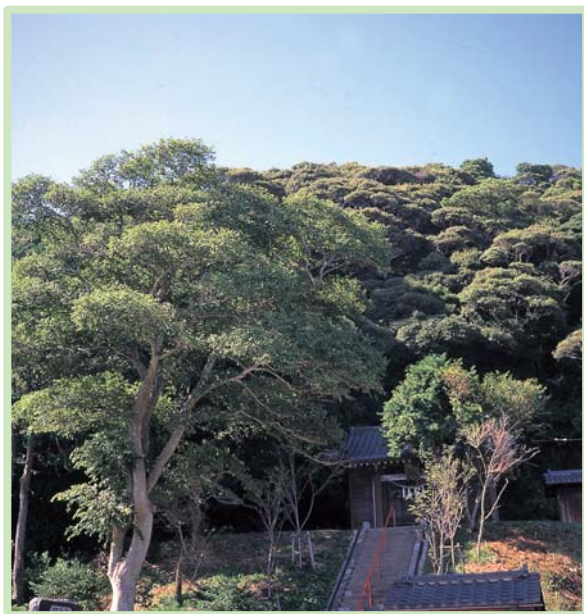
指定 1 シイ・カシ林

■所在地／平下神谷字宿183（花園神社）

■指 定／S53. 3. 10

■面 積／3, 200㎡

いわき市のスダジイ林は日本の北限地帯のもので、縄文時代はこのような照葉樹林が丘陵や平地を覆っていたものと思われます。人間の活動が活発になるにつれ減少した林で、今は神社の森にしか残っておりません。花園神社の森は住宅に囲まれ市街地環境を護るうえで大切な林です。



指定 3 シイ林

■所在地／平豊間字八幡町71（八幡神社）

■指 定／S53. 3. 10

■面 積／2, 000㎡

暖温帯照葉樹林の標徴種スダジイを優占種としたこの林は、日本の太平洋側分布の北限に近い樹林です。豊間は北西風が背後の丘陵で遮られ、黒潮の影響を強く受ける温暖な海岸地形域であることがスダジイ林を育てたと考えられます。



指定11 スギ林

■所在地／高倉町鶴巻50（高蔵寺）

■指 定／S55. 9. 1

■面 積／3, 000㎡

今から約1万年前の氷河期、若狭湾や伊豆地方で寒さを避けたスギは、その後日本全国へ分布を広げた日本の固有植物です。直幹の材は加工しやすく、その上香りがよいので建築や家具用材として重要視され植林が進みました。高蔵寺のスギ林は巨木ではないが、三重塔の荘厳な環境を醸成する役割を担っています。